重症児関係資料の落ち着き先に、若干の複雑な心境…

学生時代からの重症児に係わり出してからの文献、資料、研究報告書（冊子）、学会抄録集、親の会機関誌、等々を、リタイヤを機会にどう整理しようかと考え続けていた。今の重症児施策（大島の分類、超重症児、強度行動障害、ＳＭＩＤ、在宅支援策、等々）に繋がるその時代、時代の問題呈示の貴重な研究報告冊子もある。

周りの方に相談していたところ、二つの国立大学の研究室から、分担して引き取りの申し出をいただいた。国立大学の研究室保管という願ってもないことだけに、喜んで寄贈することにした。しかも二つの研究室は、互いにリストを作成し、共有しながら活用してくれるとのこと。

無理だろうなと思っていた３５年間に私の元に出入りした多くの大学生の卒論・修論（私は、大学に提出するものと同じもののコピー提出を学生にお願いしていた）まで、貴重だからと引き取ってくれた。

恐らくこれだけの重症児問題草創期から今までのものを、一括、一貫して持っている方は他にいないだろうとの自負もあった。それだけに、私の側から離れることは若干寂しい想いもある。

しかし、私が個人的に持ってるだけでは、単なる私の思い出の品。それより、資料として活かしてくれる大学なら、これらも生きますしね。

まあ、私の喜び以上に喜んでいるのは、長年これらが占有していた押入、本棚を整理できた家内かもね。

（2002 年 11 月 19 日 記）